

令和 6 年 10 月 2 日(水)
五 條 市 商 工 会
担 当 者 : 末 吉 ・ 松 田

令和 6 年度働き方改革推進支援助成金(団体推進コース)事業実施報告

1. 事業概要

令和 4 年度からの継続事業として、奈良労働局の働き方改革推進支援助成金(団体推進コース)を活用し、構成事業主である会員事業場内の人材確保に関する課題を解決することを目的に、令和 6 年 9 月 20 日に合同就職説明会の開催を行った。

事業実施期間：令和 6 年 6 月 17 日～令和 7 年 2 月 14 日

2. 実施内容

・令和 6 年 9 月 20 日開催合同就職説明会

主催：五條市商工会 協賛：五條市 協力：下市公共職業安定所
協力：地域若者サポートステーション

会場：

五條市役所 (1F 五條モール/大会議室)
〒637-0006 奈良県五條市岡口 1 丁目 3 番 1 号

対象：五條市近隣地域の求職者

参加企業募集：

働き方改革推進支援助成金(団体推進コース)の構成事業主である本会会員事業所 629 社(※令和 6 年 7 月 10 日時点)に対して参加案内チラシの作成・郵送での募集を行った。



参加事業所(8 社)：

- | | |
|--------------------|--------------|
| ・株式会社 よしの | ・社会福祉法人 正和会 |
| ・オリエント・ジェネライズ 株式会社 | ・大和物産 株式会社 |
| ・株式会社 柿の葉すし本舗たなか | ・株式会社 ベストライン |
| ・石井物産 株式会社 | ・株式会社 マエダシール |

求職者募集案内方法：

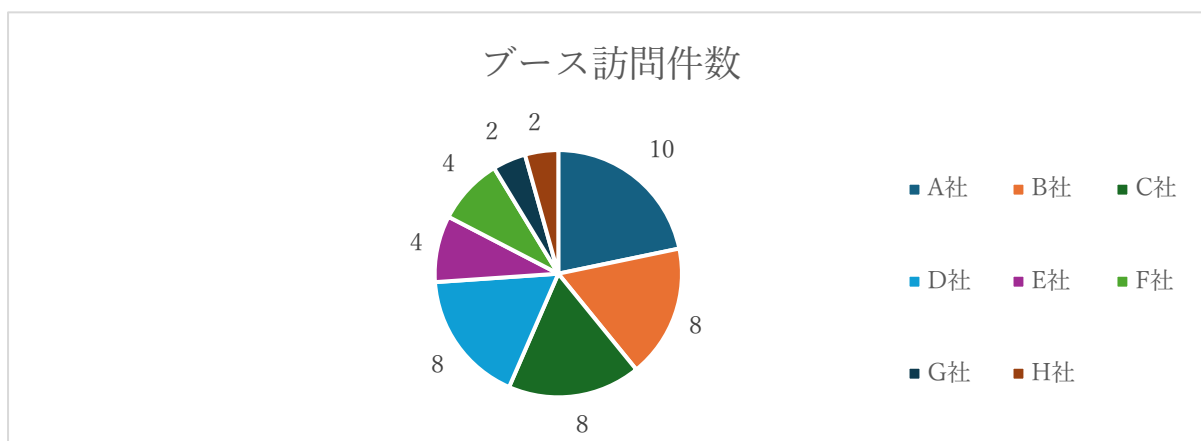
- ・新聞折込み(五條市、橿原市、高田市、葛城市、御所市、吉野町、橋本市)
- ・県内ハローワーク関連施設・近隣大学等へのチラシ・ポスター設置
- ・五條市周辺への Instagram 広告出稿
- ・五條市広報誌・公式 LINE への掲載

3. 事業実施結果

令和6年9月20日開催

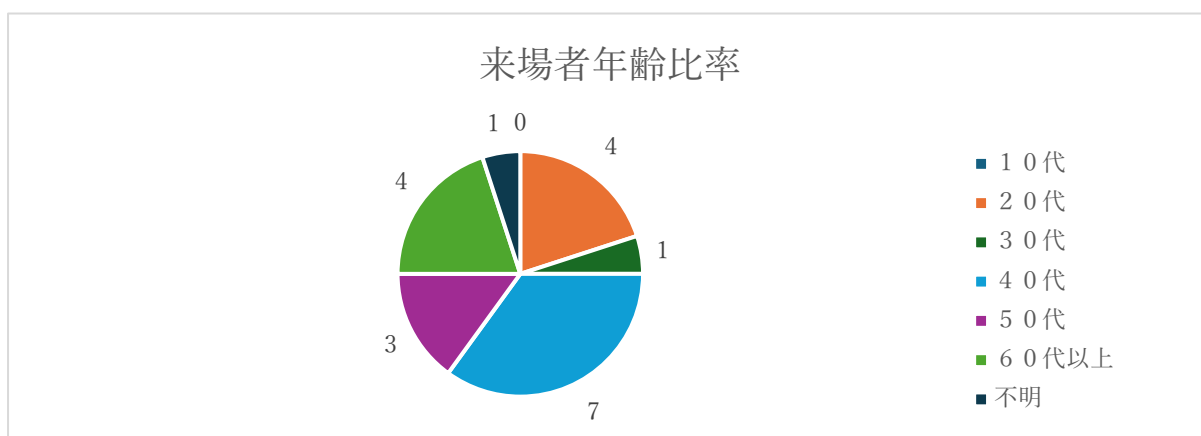
来場者(求職者)数：20名

延べ企業ブース訪問件数：46件

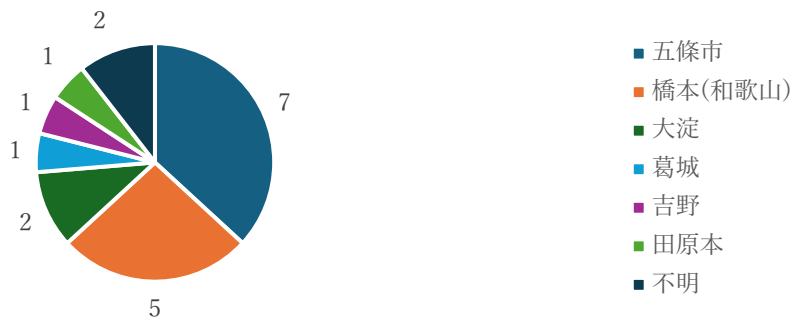


4. アンケート結果集計

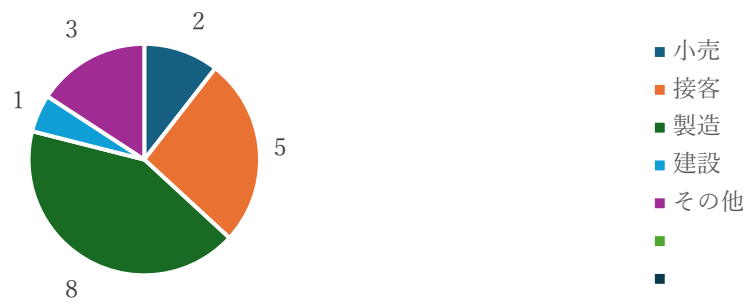
来場者：19/20名 回答



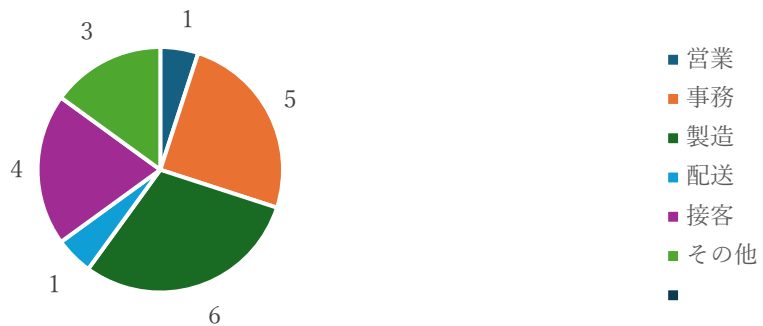
来場者在住地比率



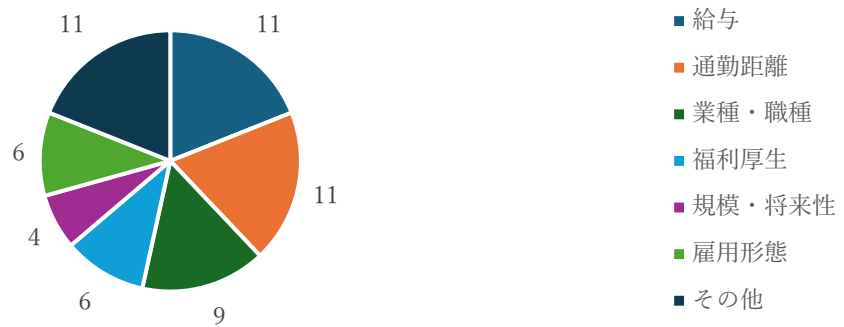
来場者の希望する業種



来場者の希望する職種



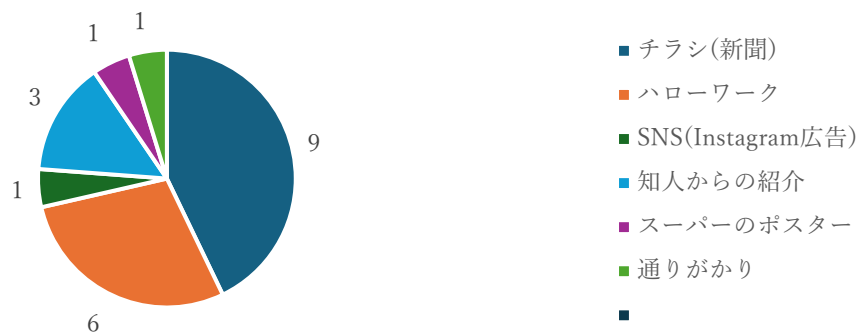
来場者が就職にあたり重視すること



来場した動機



イベント(就職説明会)を知ったきっかけ



参加企業：6/8社 回答

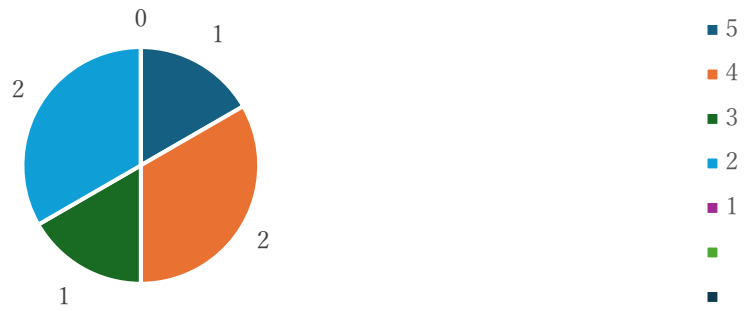
【良かった点】

- ・来場者が多く、説明を聞いて来てくださった方が多くてよかった。
- ・多くの方がブースに来てくださり、お話しさせていただくことができました。
- ・ニーズや不安など求職者の生の声を聴くことができた。
- ・前回参加させていただいた時よりも来場者が多い印象を受けました。

【悪かった点】

- ・場所が閉鎖的だと思った。
- ・入口が一か所で入りにくい
- ・少し寒かった。
- ・ルール、やり方がいまいちわからなかったです。

希望する人材と面談はできましたか？(5段階)



次回、同様のイベントを開催した際は参加を希望されますか？



次回、同様のイベントを開催する際、希望の開催時期はありますか？



次回、同様のイベントを開催する際希望の開催地域はありますか？



4. 総括

令和4年度から継続し今年で3年目、4回目の開催となった合同就職説明会事業であるが、過去2回開催を行った五條市内でのイベントは五條市上野町にあるシダーアリーナ(五條市総合運動公園)が会場であったのに対し、来場者の交通の便などを考慮し今年度は五條市役所内五條モール及び大会議室での開催となった。

過去3回のイベントとは開催方法、開催時期、対象などが違う為純粋な比較とはならないが、第1回(五條市)の来場者数30名、第2回(橿原市)19名、第3回(五條市)25名と比較し今回の20名は2番目に少なく、五條市内開催では最も来場者が少ないという結果となっている。

しかしながら、今回のイベントは参加企業数を8社に絞っており、企業平均訪問件数で比較すると、第1回が10社参加、延べ訪問件数39件、平均訪問件数3.9件、第2回が13社参加、延べ訪問件数40件、平均訪問件数3.1件、第3回が15社参加、延べ訪問件数54件平均訪問件数3.6件と比較し最も少数での開催とした為、一社当たりの平均訪問件数は5.8件と最も多い結果となっている。

過去のイベントからのブラッシュアップにより、一社当たりの訪問件数の向上に成功し、参加企業の満足度は向上したが、次年度以降の事業継続を考える場合は、広報手段の拡充を図り来場者の母数アップを目指したい。